



東京五輪の表彰台に喜ぶ南海中学校の生徒と池透暢選手(高知市長浜の同校)

池選手母校に五輪表彰台

高知市南海中「大切に使用したい」

東京パラリンピックの車いすラグビーで銅メダルを獲得した池透暢選手(41)は高知市在住。日興アセットマネジメントが2日、母

り。思いの詰まった表彰台を大切に使用したい」と感謝した。

東京五輪・パラリンピック競技大会組織委員会の「表彰台レガシープロジェクト」の一環。五輪またはパラリンピックでメダリストとなった選手の母校などに、どちらかの大会の表彰台を贈っている。

南海中には、東京五輪のハンドボールと重量挙げの授与式で金メダリストが登壇した台(縦横120センチ、高さ20センチ)が贈られた。

贈呈式は生徒会が行い、パラリンピックに臨んだ際の気持ちを池選手に質問。新型コロナウイルス感染症による大会延期について

「小中学校の同級生の応援が支えになった。(表彰台を)母校に飾ることができて誇らしい」と力強く話した。

表彰台は校舎1階の階段ホールに常設予定。学校行事の表彰式で使用するという。生徒会長の江口拓海さん(2年)は「五輪選手の強い思いがのった表彰台。行事の時に思いがせられるように一日一日努力したい」と話した。(新田祐也)